



学校だより

～ ひびきあう心 かがやく笑顔 ふれあいの丘 斎藤分 ～

令和5年 5月 31日 6月号

横浜市立斎藤分小学校 校長 黒木 健

「どうして？」から生まれる学び

校長 黒木 健

初夏を感じさせる気候となつてまいりましたが、本校保護者の皆様、地域の皆様におかれましては、益々ご清祥のこととお喜び申し上げます。さて、今月の学校だよりは、『「どうして？」から生まれる学び』と題して話をさせていただきます。

この学校だよりをお読みいただいている皆様も、中学校に入学して初めて英語を学んだ頃、「主語が三人称単数の場合、続く動詞の現在形語尾にはsを付ける。(例) *She likes running.*」と習ったのではないかと思います。もし生徒が「先生、どうしてその場合には語尾にsが付くのですか？」と質問すれば、恐らく先生からは「英語ではそう言う。だから覚えるしかない。」と返されることも多かったのではないのでしょうか。もちろんその理由をしっかりと説明してくださる先生もいらっしゃったのではないと思いますが、中学校1年生であった当時の私には、それを詳しく調べるだけの能力も備わってはおらず、また納得のいく説明をしてくれる先生も現れませんでした。

小学校の外国語活動(1～4年生)及び外国語科(5～6年)においても、それら理由を児童に説明することまでは求められてはいませんが、もし児童が授業の中で、*She like running.*と口にすれば、それを聞いた英語講師(AET)は即座に、*Oh, she likes running.*と正しい英語表現に言い換えて児童に返してくれることでしょうか。この時、児童の頭の中では、「今、ライクスって聞こえたような気がするけど、どうして先生はライクスって言ったんだろう？」といった漠然とした疑問が浮かぶかもしれませんが、これこそが小学校英語の中で大切にしたい「意味のある、でもよく分からない現象」だと私は捉えています。こうした疑問をもって小学校を卒業し、中学校で英語をより深く学習する中でその理由を知り、「あーなるほど。そういうことだったんだ。あの時に聞いた英語講師の英語は正しかったんだ。」という新たな気づきにつながっていき、そしてそれが長期記憶として頭の中で定着するきっかけにもなっていくのです。そういう意味では、中学校の先生方は、小学校での児童の学びの中味をしっかりと理解して、中学校での更なる学習につなげていく役割も担っているのではないかと感じています(中学校の先生方には誠に申し訳ないのですが・・・)。

ところで、「なぜ主語が三人称単数だと続く動詞の現在形語尾にはsが付くのか。」についてですが、現在のドイツ語やスペイン語など英語を除く大部分のヨーロッパ言語には、三人称単数現在のsのような格変化(人称による動詞語尾の活用)が複数残存していますが、英語にもかつては同様の格変化が存在していました。しかし、様々な異民族に使用されているうちに複雑な活用が長い時間をかけて徐々に落ちていって単純化し、三人称単数現在のsだけが現代英語に唯一残ったのです。

学びの入口とは、「どうしてそうなっているのか？」とその理由や背景を問うことから始まるのだと思います。中高生の頃の私は、自分の感じた疑問を思いのまま先生に執拗に尋ね、先生から煙たがられる存在でしたが、お世話になった先生方に対して失礼を承知で言えば、学びの姿勢としては、当時の自分は決して間違っていないからではないかと、今その当時を振り返っています。一人ひとりの子どもが自らの疑問を大切にしながら、日々の学習に取り組んでいくことの大切さを改めて感じているところです。